



特定非営利活動法人

# 奈良県防災士会 広報

(日本防災士会奈良県支部)

2025/JAN

# No.32

bousainara.com

## 理事長あいさつ

特定非営利活動法人奈良県防災士会 理事長 末田政一

あけましておめでとうございます。奈良県防災士会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。昨年の挨拶文で「今年こそは災害のない年になりますように」と書いたのですが、広報誌発行前に能登半島地震が起きてしまいました。



能登半島では交通が寸断され、冬期で支援が困難なことから復旧がままならず、過去の災害とは違うということをお願い知らされました。日本防災士会石川県支部から要請を受けて、奈良県防災士会から十数回の支援に伺いましたが、もし奈良県が被災して受入れ側になったときに、私たちに何が出来るのかを考えて準備をしておく必要性を感じました。

近年、各地で災害が多く発生していることから、奈良県でも防災意識が高まってきたように思います。昨年は沢山の講師派遣依頼を頂きましたが、日程等の都合でお断りせざるを得ないことが多くありました。奈良県防災士会は地域防災力の向上を目指して活動していますので、少しでも地域のお役に立てるように体制を整えていく所存です。

何よりも防災士会の役割として大事なものは、防災士会員相互の交流と親睦を図り、一人ひとりのスキルアップを目指すことです。今一度原点に戻って、防災士の皆さんと一緒に地域の安全に取り組んで参ります。

今年は防災士同士の出逢いや勉強の場を提供するために、研修会や訓練の見学、地域ごとの活動の機会を増やしていきたいと思っています。得意の懇親会も行いますので、お気軽にご参加よろしくお願ひします。

## 活動報告

■2024年(令和5年)8月～12月末の活動 ※参加人数は、主催者発表による。

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
8/8(木)	令和6年度奈良県防災総合訓練・奈良市防災総合訓練第二回全体会議	奈良市	奈良県防災統括室・奈良市危機管理課	82人
8/19(月)	三和住宅グループ夏期社員研修会 災害に備える「能登半島地震～支援活動から見てきたもの～」	奈良市	三和建设株式会社	30人
8/23(金)	川西町人権研修講座 「避難所運営ゲーム HUG」	川西町	川西町人権教育推進協議会	36人
8/24(土)	理事会&広報発送作業	三宅町	奈良県防災士会	19人
9/1(日)	天理市蔵之庄町自治会防災避難訓練 「家具転倒防止」	天理市	天理市蔵之庄町自治会	106人
9/2(月)	令和6年奈良県防災総合訓練避難所訓練 医療部門打ち合わせ会議(第2回)	橿原市	奈良県福祉医療部総務課	20人
9/6(金)	奈良高専 「危機管理対策本部におけるテーブル訓練」	奈良市	奈良工業高等専門学校	8人
9/8(日)	備えて安心!防災講座! 「能登半島地震から学ぶこと」	奈良市	済美地区自主防災防犯協議会・春日公民館(共催)	40人
9/8(日)	葛城市太田区「HUG」訓練	葛城市	葛城市太田区	37人

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
9/14(土)	平群町連続講座④ 「地震に備えよう！正しい知識と防災」	平群町	平群町中央公民館	6人
9/15(日)	奈良市北袋町町民防災講座 「町民の防災意識向上」	奈良市	奈良市北袋町自治会	15人
9/17(火)	令和6年度奈良県防災総合訓練・ 奈良市防災総合訓練第三回全体会議	奈良市	奈良県防災統括室・ 奈良市危機管理課	93人
9/17(火)	奈良防災プラットフォーム連絡会 令和6年度 第1回定例会について	—	奈良防災プラットフォーム 連絡会事務局	1人
9/18(水)	災害ボランティア出前講座 「能登半島地震と地震への備え」	田原本町	田原本北小学校	30人
9/21(土)	奈良県自主防犯・防災リーダー研修 「防災士に期待される活動」、「マイ・タイムライン(地震編)」	奈良県	奈良県防災統括室	70人
9/23(月)	葛城市柿本区「防災訓練」	葛城市	葛城市柿本区	18人
9/28(土)	奈良県自主防犯・防災リーダー研修 「防災士に期待される活動」、「マイ・タイムライン(地震編)」	奈良県	奈良県防災統括室	200人
9/28(土)	関西広域連合協議会全体会議	大阪府	関西広域連合	100人
9/29(日)	川上村東川地区8垣内 まち歩きと避難マップの作成	川上村	東川(うのがわ)地区	30人
10/5(土)	平群町連続講座⑤ 「災害時の食について考えよう！ポリ袋クッキング」	平群町	平群町中央公民館	4人
10/6(日)	奈良市六郷地区避難所開設事前研修	奈良市	奈良市&六郷地区	45人
10/8(火)	奈良防災プラットフォーム連絡会 第2回検討会	—	奈良防災プラットフォーム 連絡会事務局	1人
10/12(土)	関西支部連絡協議会令和6年度総会	大阪市	日本防災士会関西支部 連絡協議会	11人
10/13(日)	葛城市防災士会 スキルアップ研修会	葛城市	葛城市防災士会	9人
10/13(日)	奈良県防災士会理事会	三宅町	奈良県防災士会	16人
10/20(日)	奈良県防災総合訓練 「リアル避難所開設・運営訓練、医療アセスメント訓練」	奈良市	奈良県防災統括室、 奈良市危機管理課	45人
10/26(土)	川上村東川地区避難計画書 地区防災計画作成(8垣内分)	川上村	東川(うのがわ)地区	19人
10/27(日)	災害に備えた職員研修 「能登半島地震・豪雨災害～支援活動からみえてきたもの～」	平群町	平群町社会福祉協議会	30人
10/27(日)	2024 学園南地区防災訓練 「実生活で役立つ基本的なロープワーク」	奈良市	学園南地区自主防災・ 防犯協議会	150人
11/10(日)	令和6年度大和高田市 災害ボランティアセンター運営訓練	大和高田市	大和高田市社会福祉協議会	58人
11/10(日)	令和6年度 斑鳩町防災訓練	斑鳩町	斑鳩町役場安全安心課	300人
11/10(日)	穴虫西自治会防災講演 「災害(地震)に対する家庭での備えと行動」	香芝市	香芝市穴虫西自治会 自主防災会	80人
11/11(月)	奈良県防災プラットフォーム フォーラム・アンケートについてのウッチ合わせ	—	奈良県社会福祉協議会	1人
11/13(水)	吉野町区長連合会防災研修会 「地震発生、発災から3日間をどう生き抜くか」	吉野町	吉野町区長連合会	43人
11/17(日)	自主防災会講演会「在宅避難のあり方」	広陵町	馬見北6丁目自主防災会	20人
11/17(日)	防災講演会 「能登半島地震から学ぶ、地震への備え」	奈良市	平城西地域自治協議会 平城西地区自主防災防犯会	40人
11/19(火)	奈良県防災プラットフォーム フォーラム及びコーディネーター育成研修の打ち合わせ	—	奈良県社会福祉協議会	1人
11/27(水)	道の駅クロスウェイならまち開駅イベント 「ムラージュ、傷病者演技指導、誘導」	奈良市	道の駅クロスウェイなかまち	約200人

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
12/1(日)	都祁地域合同防災訓練	奈良市	都祁4地区自主防災防犯会 奈良市消防団都祁分団	200人
12/4(水)	奈良県防災プラットフォーム フォーラムの役割分担	—	奈良県社会福祉協議会	8人
12/11(月)	奈良県防災プラットフォーム フォーラムの資料調整	橿原市	奈良県社会福祉協議会	10人
12/12(木)	法隆寺における総合防災訓練 「シェイクアウト・防災まちあるき」	斑鳩町	斑鳩町安全安心課	50人
12/14(土)	奈良県防災プラットフォーム 災害時における多様な主体間の連携を考えるフォーラム	奈良市	奈良県社会福祉協議会	120人
12/15(日)	川上村東川地区避難計画 講演「マイ・タイムライン」	川上村	東川(うのがわ)地区	50人
12/15(日)	本部支部長会議	—	日本防災士会	28人
12/16(月)	気象台勉強会	—	奈良地方気象台	15人

## ■令和6年能登半島地震&豪雨 災害支援活動

月/日(曜)	派遣内容	派遣地	主催団体	参加人数
9/14(土)~15(日)	第7次災害ボランティア	珠洲市・能登町・羽咋市	奈良県防災士会	8人
10/7(月)~8(日)	第8次災害ボランティア	珠洲市	奈良県防災士会	2人
10/14(月)~17(木)	第9次災害ボランティア	珠洲市	奈良県防災士会	1人
11/2(土)~3(日)	第10次災害ボランティア	珠洲市	奈良県防災士会	7人
12/1(日)	第11次災害ボランティア	珠洲市	奈良県防災士会	8人

## ■ラジオ・新聞・テレビ関連

月/日(曜)	番組名、取材テーマ	主催者又は要請団体	担当
8/13(火)	「南海トラフ地震臨時情報に伴う 地震対応と避難対応について」	NHK 奈良放送局	末田
8/26(月)	「台風への備え」	NHK 奈良放送局	末田
9/3(火)	奈良テレビゆうドキ！ ”奈良のギモン” おうち防災について	奈良テレビ放送局	石川
9/4(水)	取材	奈良新聞社	小山
9/19(木)	本年度の打合せ等	NHK 奈良放送局	末田
11/16(土)	NHK ラジオ「関西発ラジオ深夜便」	NHK 大阪放送局	末田

## ■奈良県自主防災アドバイザー派遣

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
9/28(土)	二階堂フェスタ(防災講演)	天理市	二階堂フェスタ実行委員会	800人
10/27(日)	「第10期 自治防災会組長・ 役員 防災勉強会」	奈良市	ヴィルヌーブ学園前Iコンサート 自治防災会	12人
11/7(木)	防災講演 「あなたとあなたの大切な家族を守るため・能登半島被災地支援報告」	天理市	天理市川原城本町町内会	50人
11/15(金)	自主防災会の勉強会 「マイ・タイムライン(台風)」	明日香村	雷(いかづち)大字自主防災会	25人
12/1(日)	明日香村阿部山大字自主防災会 「防災<日頃の備え・災害時の行動>について」	明日香村	阿部山自主防災会	16人

## ■奈良県自主防犯・防災リーダー研修 マイ・タイムライン（地震編）

令和6年度の奈良県自主防犯・防災リーダー研修が、御所市防災交流館と奈良女子大学の2会場で開催されました。この講座は奈良県安全・安心まちづくり推進課が主催する防災士養成講座で、本年度も270名の受講者がA日程、B日程とも各2日間で受講されています。奈良県防災士会からは9月21日（土）にA日程、9月28日（土）にB日程の講義に参加し、「防災士に期待される活動」の講義を末田防災士が担当、「マイ・タイムライン地震編の実技訓練と大雨編の説明」を石川防災士（A日程）と八木沢防災士（B日程）が行いました。



全国の防災士は30万人に達しようとしています。防災士としての役割も多様化してきていますが、まずは自分の命を守り、そして地域や職場等で活躍頂くために、奈良県防災士会は「会員のスキルアップ」と「会員相互の親睦を図る」お手伝いをしています。奈良県でも4000人超の防災士が誕生しています。お気軽に奈良県防災士会へ参加して下さい。〈報告：末田政一防災士〉

令和6年9月28日（土）奈良県自主防犯・防災リーダー研修プログラムのB日程午前中の講座を奈良県防災士会が担当し、「タイムライン訓練（地震編）」に八木沢防災士が登壇しました。

訓練は南海トラフ地震が発災し自宅での被災を想定、時系列に自分が行う行動について受講者が普段の備えや事前に決めている事を用紙に記入、その後振り返りで詳細を説明する内容で進めました。発災後の周辺住人の安否確認を、マンションのドアに目印をつける様に決めていると答えた方や、非常用持ち出し袋に関し、2〜3泊できる旅行用バックにパッキングして準備していると答えた方がおり、防災士の資格を取る為に受講されている方々は非常に防災意識が高いと感心させられました。講師の八木沢防災士からは、自治会や自主防災会での地元で普段から行う活動が、そのまま防災・減災につながる事をお伝えしました。地震編の次に水害編のマイ・タイムライン「逃げキッド」の概略説明を行い、事前にわかる災害が水害なので、情報収集・避難場所の確認・避難の時に持ち出す物を、あらかじめ計画し準備しておく事の重要性をお伝えしました。最後に奈良県防災士会が行う能登半島災害支援について、現地の現状・災害ボランティア活動の実際について説明致しました。今後受講者の皆様が防災士になられた際のアドバイスとなれば幸いです。〈報告：八木沢防災士〉

## ■災害に備える「能登半島地震～支援活動から見てきたもの～」

令和6年8月19日（月）、三和建設株式会社からの要請を受けて植村相談役が社内で防災講演を行いました。テーマは、「能登半島地震！支援活動から見てきたもの」です。当初は、被災した現地の様子や支援活動を通して感じたことを中心に講演を予定していましたが、さる8月8日に「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発令されたこともあり、「今、自分でできていること」を交えた講演となりました。参加者は熱心に話を聞いておられましたが、土木・建設関係者として①心がまえ②災害発生時の行動③南海トラフ地震に備えるためにということもさることながら、個人として災害に備えるための準備という点を考えるきっかけとなった研修でもあると感じました。〈報告：植村信吉防災士〉

## ■人権教育研修講座「避難所運営ゲームHUG」 川西町

令和6年8月23日（金）川西町人権教育推進協議会主催の「避難所運営ゲームHUG」が川西町文化会館サークル室ABCで行われました。学校関係、人推協関係、婦人部、役場、県・町会議員、自治会員と様々な分野から36名が参加され、奈良県防災士会の防災士6名がグループ毎にファシリテーターを務めました。次々とやっている避難者に、どのグループも熱心に意見を出し合いながら対応されていました。後半の振り返りでは、参考になる意見が次々と出され、参加者全体で共有することが出来ました。

〈報告：小山防災士〉

## ■「家具転倒防止について」 天理市蔵之庄町自治会

令和6年9月1日（日）第5回天理市蔵之庄町自主防災避難訓練が行われました。夜間の地震発災を想定されており、蔵之庄町自主防災委員会が中心となり、各組毎にまとまって避難場所である高井病院西館まで避難されました。避難場所到着後は住人リストを作成し避難者数を把握する内容で進められ、計106名の方が訓練に参加されました。奈良県防災士会より八木沢防災士が「能登半島地震」及び「蔵之庄地区の災害リスクと耐震診断」を説明した後、「家具転倒防止」について木造モデルを用いて講演しました。天理市ハザードマップより、水害・地震のリスクの説明、能登半島地震での家屋倒壊が多かった理由、南海トラフでは地震の揺れが2～3分続く事も説明させて頂き、家の耐震や家具の転倒防止について関心を持って頂ける内容だったと思っております。講演最後に「災害の時に頼りになるのは隣近所」、「自治会、自主防災会の活動を通じて、顔の見える関係になっておく事が何より重要」だと説明させて頂き、講演を締めくくりました。<報告：八木沢防災士>



## ■危機管理対策本部における「テーブル訓練」 奈良工業高等専門学校

令和6年9月6日（金）奈良工業高等専門学校において、危機管理対策本部による「テーブル訓練」が行われました。災害想定は南海トラフ地震で、授業中の午前10時に発災したとして、危機管理対策本部に従事する教職員8名が訓練に取り組みました。ファシリテーターは奈良県防災士会の植村防災士が務め、発災直後からその次、更にその次と、時系列に一人一人がどう動くのかを考えて頂きました。発災直後の安全確保、安全な場所への避難、学生及び教職員の安否確認、本部立上げ以降を考えるだけでも、その日の天候や被害状況に拠っては選択肢を複数用意しておくべきであること、学生を校内にとどめておくべき条件と帰宅させる判断基準を状況に応じて何段階か設定しておくこと、周辺住民が避難してきた際の対応方針を地元自治会と予め共有しておくことの必要性等が浮き彫りになりました。奈良高専でのかつての取り組みや現状、他の高専における参考事例なども話題に供され、参加者全員で意識を共有することが出来ました。<報告：小山防災士>



## ■奈良市六郷地区訓練前訓練「リアル避難所開設・運営訓練」

令和6年10月6日（日）旧六郷小学校体育館において、令和6年度奈良県防災総合訓練の訓練前訓練が行われました。奈良市危機管理課の指導の下、六郷地区自主防災防犯会の45名が「リアル避難所開設・運営訓練」に取り組みました。奈良県防災士会の防災士26名は運営本部のサポートや避難所開設をお手伝いするとともに、聴覚障害者や車椅子利用者、赤ちゃん連れのママやペット連れ、足を骨折して毛布担架で担ぎ込まれるケガ人など、様々な支援と必要とする避難者をリアルに演じました。六郷地区の皆さんは声を掛け合い、一人一人が積極的に動いてこれらのニーズに対応されていたことを、植村相談役は講評で高く評価されました。<報告：小山防災士>



## ■令和6年度奈良県防災総合訓練 「リアル避難所開設・運営訓練、医療アセスメント訓練」

令和6年10月20日（日）奈良市都祁生涯スポーツセンターにおいて、令和6年度奈良県防災総合訓練が開催されました。奈良県下から80機関が参加して被災地訓練と避難所訓練が行われ、奈良県防災士会は六郷地区自主防災防犯会の45名が「リアル避難所開設・運営訓練及び医療アセスメント訓練」に取り組みの支援しました。訓練指導は末田理事長が務め、奈良県防災士会の防災士23名は運営本部のサポートや避難者役、在宅避難者のサポートなどを担当しました。



避難者受入では居住スペースがほぼ埋まった頃に要介護5の高齢者が毛布担架で担ぎ込まれて対応に苦慮する場面や、在宅避難者対応で電話が繋がらないなかでの連絡方法をどうするかなど、被災地で起こり得る課題がリアルに再現されました。振り返りで末田理事長は「六郷地区の皆さんは訓練前訓練の甲斐もあって、とてもよく頑張られました」と評価されました。六郷地区自主防災防犯会の牧田会長は「これまで自分達のところで災害は起こらないと思っていたが、訓練を通じて地元でも災害は起こるかもと考えるようになった」と締め括られました。今回の一連の訓練が六郷地区の皆さんにとって「災害を自分事として考える」きっかけになっておりますように。〈報告：小山防災士〉

## ■2024 学園南地区防災訓練実生活で役立つ基本的なロープワーク

令和6年10月27日（日）あやめ池小学校体育館において、奈良市学園南地区の防災訓練で、炊き出し訓練、救命救急・AED訓練、ロープワークが行われました。防災士会（村山防災士）は実生活で役立つロープワークを担当、ボーイスカウトの人達と分担して行いました。できるまで熱心に練習されていました。その後ドクターヘリがグラウンドに着陸し、帽子を飛ばされたり、砂嵐の体験。最後はおいしい炊き出しごはんのカレーをいただきました。〈報告：村山中央防災士〉



## ■大和高田市災害ボランティアセンター運営訓練

2024年11月10日（日）大和高田市災害ボランティアセンター運営訓練に、奈良県防災士会より14名の防災士が参加しました。総合福祉会館1階やすらぎホールを災害ボランティアセンターとし、大和高田市が豪雨による浸水被害を受け、ボランティアセンターを立ち上げて2日目の訓練想定でした。事務局長の白石様より開会のあいさつの後訓練がスタート。防災士会8名がボランティア役となり、受付はQRコードを入力、オリエンテーション、マッチングに進み、資機材を受け取りボランティアに出発の手順です。能登への災害支援経験メンバーを配置し、ゴミの分別、泥だし後の廃棄場所等、運営側の方に気づきを与える指摘をして頂きました。困りごと相談は、住民役として防災士会5名を配置。事前に被害想定をお渡ししており、住人役になり切って訓練をして頂きました。訓練後の各班の振り返りでは、実際に運営をした事で見えた課題が報告され、内容の濃い又次回に繋がる訓練となりました。講評として八木沢が挨拶をさせて頂き、訓練は終了となりました。参加頂いた14名の防災士の方々、ご協力ありがとうございました。〈報告：八木沢 防災士〉



## ■斑鳩町総合防災訓練

11月10(日)、斑鳩町西小学校において、「令和6年度斑鳩町防災訓練」が開催されました。この訓練には自衛隊の他、町内各種団体のブース出展があり、斑鳩町自主防災連絡会が初めて「簡易トイレ」ブースを担当しました。県防災士会は、訓練企画段階に始まり、本番では防災〇×クイズとシェイクアウト訓練を担当しました。また、自主防災連絡会の簡易トイレ設置については、本番前の予備研修と、本番でのアドバイスを担当しました。訓練には町内の住民の方が数多く参加され、特に、子供さんを連れた参加者が多く見られた訓練となり、盛況の内に幕を閉じました。

<報告：植村信吉防災士>



## ■吉野町区長連合会 防災研修会「地震発生、発災から3日間をどう生き抜くか」

令和6年11月13日(水)吉野町中央公民館大ホールにおいて、吉野町区長連合会防災研修会が開催されました。講師として奈良県防災士会の防災士4名が招かれ、区長さんや自治会長さん総勢43名を対象に「地震発生、発災から3日間をどう生き抜くか」と題して研修は行われました。第一部の「地震時タイムライン研修」では自分や家族、自治会について考えていただき、第二部の「グループワーク」では地区ごとに備えや取組について話し合っていました。防災の要ともいえる「人の繋がり」が盤石な地域だけあって、どの地区からも建設的な意見が出されたことに手応えを感じました。

<報告：小山防災士>

## ■防災道の駅「クロスウェイなかまち」がオープン

11月30日、全国39カ所目となる防災道の駅「クロスウェイなかまち」がオープンしました。これに先立ち行われたプレオープンイベント(11月27日)の消防訓練に参加しました。スタッフとして大坂間が参加し、八木沢、東防災士にも参加協力をいただきました。この施設は、平時は県産野菜をはじめとする農産物などを取り扱う直売所や、これらの食材を使用した料理を提供するレストラン、カフェなどが併設されています。地域の振興や観光のゲートウェイとなる施設です。防災道の駅であることから、防災倉庫、発電装置なども備えており、大規模災害時には防災拠点および関係団体の参集拠点としての役割を果たします。皆様にもぜひ足を運んでいただき、防災道の駅「クロスウェイなかまち」をご確認ください。

さて、今回の訓練参加についてですが、消防訓練の一環として施設内からの出火に伴う訓練が行われました。消防、警察、DMATによる災害対応訓練(災害対策本部・指揮所の開設)ならびに負傷者の救助とトリアージ、消火放水訓練、搬送などが行われました。今回の役割としては傷病者役へのムラージュと負傷事例への演技指導ならびに運営誘導案内を行いました。ムラージュに関しては訓練前に講師による事前指導が行われたため、それを思い出しながらよりリアルに感じていただけるよう取り組みました。このような機会はそう多くなく、参加者は皆さん楽しんでいました。ムラージュもさることながら、負傷者としての迫真の演技も見応えがありました。



ムラージュとはケガの状態をリアルに再現したものです。メイクのほかにシールで表現したものもあります。

最後に、この施設には多目的室もあり、40名(座席)の研修会場としても利用可能です(有料)。

防災関係のセミナーなどに有効活用してほしいと、施設管理者の方から伺っております。

詳しい情報は検索ワード「道の駅クロスウェイなかまち」で公式ホームページをご覧ください。<報告：大坂間防災士>



## ■都祁地域合同防災訓練

令和6年12月1日(日)大和高原都祁地域において、都祁地域4地区の自主防災会と消防団の合同で「都祁地域合同防災訓練」が実施され、約200名の参加をいただきました。奈良県防災士会からは都祁地区の自主防災会長でもある末田防災士と都祁地区の防災士が参加しました。都祁地域には4つの旧小学校区に各一次避難所がありますが、今回は大災害を想定して2次避難所の都祁中学校を会場として実施。災害時には自主防災会会長をはじめほとんどの役員が一次避難所を担当しているため、2次避難所は慣れていない方が集まることが予想されます。今回の訓練では予め何の準備もせず、住民集合の9時から一斉にスタートだったので、もちろん受付も何もなく、初めての方はその時点で戸惑われていました。一応役割分担とタイムラインを冊子で全員に配布しましたが、体育館には机もスリッパも何もなく、自分たちで考えながら、全員が班分けのリボンをつけて手分けして避難所を開設しました。総務班と情報班は受付を設置、施設班は体育館に一人分の区画割りを養生テープで行い、物資班は非常食の配布。救護班も役割をこなし、全員が協力することで予定の45分間で避難所開設が出来ることが証明されました。



都祁消防団は早朝から都祁全域をパトロールと訓練の広報を行い、その後避難所に駆けつけて、広報指導分団の講義と防災〇×クイズを担当。〇×クイズでは全員に景品もあり盛り上がりました。消防団との連携テストでは、消防団と自主防災会のデジタル簡易無線が繋がらず、奈良市消防団で秘話コードが設定されていてお互い繋がらないことが判明し今後の対応に繋がりました。山間部は孤立の恐れがあるため、初動時は自分たちの地域だけで対応をする必要があります。今回はコロナ禍で久しぶりの方や初めて参加の方も多く、有意義な訓練となりました。〈報告：末田政一 防災士(都祁)〉

## ■広陵町防災士ネットワーク設立10周年記念式典

12月8日(日)10時から、広陵町グリーンパレス5階ホールで、広陵町防災士ネットワーク設立10周年記念の式典が開催されました。式典では、防災士ネットワークの長谷川会長の挨拶から始まり、広陵町山村町長の挨拶などがありました。式典のあとは、漫談及び防災落語を、元消防職員の桜屋正助が演じられ、小一時間笑いに包まれました。昼からは、5階ホールと1階エントランス、駐車場でいろんなコーナーを設け、防災について学んでもらいました。広陵町防災ネットワークは、奈良県防災士会の団体賛助会員です。〈報告：板垣防災士〉

## ■シェイクアウト訓練、防災まちあるき(法隆寺防災訓練)

令和6年12月12日(木)法隆寺において、斑鳩町・法隆寺主催の防災訓練が行われました。2014年から毎年実施されている本訓練は今年で11回目を数え、毎回、斑鳩町の要請を受けて奈良県防災士会が支援をしています。今年度は奈良県防災士会から防災士16名が参加し、地元自治会や自主防災組織、法隆寺の関係者など約50名を対象に「シェイクアウト訓練」と「防災まちあるき」を実施しました。シェイクアウト訓練では修学旅行でその場に居合わせた高知工業高校の学生さん達が素早い動きを見せてくれました。



防災まちあるきに先立ち、能登半島地震や東日本大震災の地震発生の瞬間映像を聖徳会館で確認してから、参加者は法隆寺境内ならびに周辺地区の5つのエリアに分かれて出発して行きました。エリアの



一つは法隆寺山内で、大野執事長にご案内頂きながら、法隆寺関係者と防災まちあるきを行いました。参加者の皆さんにはいつもの見慣れた風景を防災目線で歩く事で新たな気付きが得られたことと思います。

本訓練の様子は当日放送の奈良テレビ「ゆうドキッ！」で取り上げられました。〈報告：小山防災士〉



## ■令和6年度 災害時における多様な主体間の連携を考えるフォーラム

令和6年12月14日(土)13時から、東大寺総合文化金鐘ホールにおいて、奈良防災プラットフォーム連絡会主催の「令和6年度 災害時における多様な主体間の連携を考えるフォーラム」が開催されました。このフォーラムは、内閣府「令和6年度 官民連携による被災者支援体制構築」のモデル事業として実施されました。奈良県防災士会からは、4名が参加し、事前準備・当日の運営支援を担当しました。まず、開会のあいさつ・オリエンテーションが行われ、基調講演としてJVOADの明城事務局長が講演され、続いて、トークセッションとして奈良県防災統括室の西村さん・須和さん、奈良県性格協同組合連合会の三谷さん、奈良県社会福祉協議会の浅井さん、コーディネーターとして、明城さん、コメンテーターとして災害支援レスキューアシストの中島さんが、「奈良県内の多様な主体間の連携・協働の現状と課題について」議論された。休憩をはさみ、第2部として3つの分科会に分かれ、学習しました。

(第1分科会)顔の見える地域づくりの底力～災害にも生きる地域のつながりを考える～

(第2分科会)企業による災害支援活動への参加～自分たちの良さ・わが社らしさを活かす～

(第3分科会)土業・専門職による分野横断の被災者支援ネットワークづくり～

参加者は、総計120名でした。〈報告：板垣防災士〉

## ■奈良地方気象台との勉強会

令和6年12月16日(月)奈良地方気象台において、奈良地方気象台と奈良県防災士会の勉強会が行われました。前半は奈良県防災士会が講師を務め、石川防災士が「地震時タイムライン研修」を、北村防災士は「能登半島に於ける災害支援活動について」説明し、植村相談役が全体総括を行いました。後半は奈良地方気象台の本多地域防災官より「大雨を想定したワークショップ資料」についてご紹介を頂きました。防災士からの質問にも丁寧にご回答頂きました。勉強会の後には懇親会の席も用意され、奈良地方気象台での防災への取り組みについて理解を深めることが出来ました。〈報告者：小山防災士〉

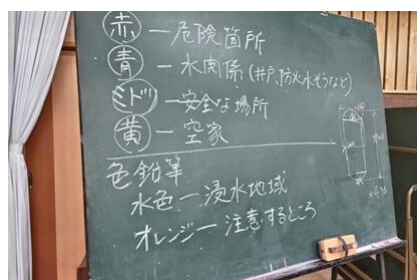


## ■川上村東川(うのがわ)地区避難計画(講演マイタイムライン等)

令和6年12月15日(日)川上村東川地区の「地区防災計画」策定について、7月から進めてきた地区防災計画のまとめとして末田防災士が東川地区住民対象にマイ・タイムラインの講義を実施。ちょうど15日でしたので「171災害伝言ダイヤル」の練習も行いました。

地区防災計画というとハードルが高いと思われがちですが、東川地区に八つある垣内のほとんどが土砂災害警戒エリアか浸水地区になっていて災害が発生する前に避難を完了する必要があることから、まず避難計画を作成しました。

まず7月に各垣内の役員対象に地区防災計画の説明会とワークショップ



プを実施して、自分の地域の自然の特性と社会の特性を書き出して、避難時の計画をイメージしてもらいました。9月には防災士7名が8垣内の住民と一緒に「まち歩き」を実施して、危険箇所や一時避難できる場所などを調査しました。10月には9名の防災士が参加して、まち歩きで書き留めた地図を元に、危険地域や空き家などを色分けして地図を清書し、地区の特性や行動計画を文章にまとめました。住民の皆さんで作上げたので、手作り感のある良いものが出来ました。その後役場で印刷原稿にしたものを最終講義の際に住民の確認してもらい、より自分事とするためにマイ・タイムラインを実施して、垣内ごとから家族単位の避難計画を策定しました。

地区防災計画の必要性が叫ばれていますが、なにかから取り組んでいいのかわからない地域も多いと思います。地区防災計画の手本にしたいとのことで、県からも視察に來られました。避難計画の作成はもちろんです、なにより住民の皆さんが改めて地域の事を考えるきっかけになったことが良かったと思います。東川地区は伊勢湾台風の際に大きな被害を受けていて、避難が遅れると孤立してしまう集落も多くあります。今回の避難計画が生きた計画になるように、またモデル地区として多くの方に知って頂ければ幸いです。

<報告：末田政一 防災士>



## 災害復興支援活動

### ■ 第7次能登半島地震被災地支援報告 (9月13日～15日)

2024年9月13日、能登半島地震第7次被災地支援活動の防災士8名のメンバーが近鉄西大寺駅南側ロータリーに集まり21:50頃出発しました。今回がNPO法人奈良県防災士会としての能登支援活動は最終となります。参加メンバーの自家用車5台に分乗して石川県珠洲市を目指しました。

14日(土)5:20頃に順次道の駅すずなりに到着。そこで朝5:00から営業していた「すずキッチン」で昼用のお弁当を購入して各自車内で仮眠。7:45頃、珠洲市ボランティアセンター(以下VC)へ向けて移動し到着後、スマートフォンでの受け付け登録を行い、活動先の説明と他からのボランティアの方とマッチング、オリエンテーションを受けました。午前は奈良県防災士会メンバーは4名ずつ北村班と大坂間班に二手に分かれ、それぞれの依頼先へ向かいました。北村班メンバーは川口、湯浅、福本の各防災士とひのきしんの方2名と行動を共に飯田へ向かいました。飯田地区1件目は「仏壇、畳の運び出し」の依頼で、家人の立会いのもと引き戸や小型冷蔵庫、照明器具や小物も廃棄を要望され回収して運び出しました。津波で被害を受け母屋は地盤が隆起し、リフォームしてまだ7年ほどでローンも残っているとおっしゃってましたが取



り壊しを決めたとの事。依頼の完了をご確認いただきひとまず VC へもどり報告。

時刻が 10:00 とまだ早いため飯田地区での 2 件目を受諾。以前、小料理屋だったお宅の取り壊し前の片づけ作業で前回作業のボランティアが廃棄し忘れたものが残っているということでシンクや裏庭の植木鉢などを回収しました。植木鉢は土嚢袋に入れ叩き割って回収。母屋の中はまだ手つかずで、VC での報告では今回で依頼は完了、ただ今後も要対応と報告した。VC の受け付けの方から「今後についてこちらからよく調べておきます」と対応いただきました。

一方、宝立地区へ向かった大坂間班、村山、吉川、矢作各防災士は加賀の防災士 2 名との行動でした。納屋の中に大量の物があり、祭の準備のために運び出してほしいという依頼で、立ち会い人不在の為、自己判断しなければならない案件でした。実際にはひどい有様でトラクターの関連部品、細かい廃棄物や蜂の巣やネズミがいたり大変だったとのことで、全員ここでの作業でかなり疲弊した様子でした。

昼食のお弁当を VC のテント下でいただいたのち、午後からの案件へ出発。

宝立地区の現場に 13 時過ぎに到着。今回 2 回目で納屋の分別したゴミを運び出す作業で依頼主の高齢の女性から説明を受けました。15 年前に先立たれた左官業のご主人が、納屋に貯め込んだらしい色々なものをまとめて廃棄したいとのことでとにかく軽トラに載せ集積場へ。家庭ごみに判断されるかと思ったら可燃ごみは家具類の災害ごみとして全て回収されたとのこと。他には木切れ、木材が大量にあり 2 台目のトラックへ載せ集積場へ運びました。母屋内はまだ手つかずでしたが集積場の受け入れ時刻に間に合わないため、依頼主さんとお話をして今後してもらいたいことを聞き出し、その内容を要継続として VC に報告しました。1 日目はとにかく暑く汗を多くかいた 1 日でした。

報告完了後、防災士会に翌日お願いしたい依頼があるということで内容を確認したところ、折戸地区の納屋の片付け作業で 8 人で向かうこととなりメンバーにも共有したのち VC を出発。その日の宿泊を予約している能登町の「少年自然の家」へ向かいました。奈良県防災士会が何度もお世話になっている野外活動施設で復興支援の業者の方も宿泊されていました。

翌日の 9 月 15 日、未明から雨が降っていました。7 時半ごろに珠州市 VC に着いたころは少し晴れ間があり涼しい感じでした。オリエンテーションも割愛され奈良県防災士会 8 名全員で目的地の折戸の「木ノ浦海域公園」へ向かいました。依頼内容は「納屋の使わなくなった漁の網をハサミで切って鉛の重りを回収し分別して欲しい」というものでした。海沿いの綺麗な湾に面した場所で震災前にはカフェもあったようですが被災し取り壊されていました。朽ちた納屋の中に漁具があり、これまでのボランティアの継続活動として各自でハサミを持って景色を眺めつつひたすら網から重りをハサミで切り取る作業を行いました。空は次第に曇天となり、村山防災士から思わず「鉛色の空の下で鉛を切り取る作業とは」というセリフが出ました。雨雲情報がやばいと何人かが言い出しカミナリが鳴り始め瞬く間に土砂降りの大雨となりスマートフォンからは土砂災害警報も出始めたため作業を中断して雨宿り。この日は夕方まで雨予報となっており雨脚が小康状態になったところで VC に確認の連絡を取り撤収しました。VC で作業の報告をし終わったのが 11 時半でこの時点で奈良県防災士会としての能登半島地震被災地支援活動の終了としました。



なお気になる珠州市 VC の運営については 10 月からは土日など週末に限定した開設へと移行するとの事。平日のボラ



ンティアがほとんど来なくなったからだそうです。奈良への帰投の前に道の駅すずなりに隣接された「すず食堂」へ立ち寄って皆で昼食を取りました。珠洲市内の被災した4つの飲食店さんが合同で開業された食堂とのことで、ボランティアや地元の方々で列が出来るほど賑わっていました。復興にちなんで「福幸丼」と名付けられた福を呼ぶ海鮮丼をいただきましたがとても美味しかったです！道の駅すずなりも多くの人々が訪れ、珠洲は元気で復興は時間は掛かっても着実に進んでいるんだなと感じさせられました。メンバーは22時過ぎに近鉄大和西大寺駅前へ到着、解散となりました。



皆様たいへんお疲れさまでした。〈報告：北村防災士〉

## ■令和6年9月「能登豪雨」被災地支援報告

令和6年10月7日(月), 8日(火) 先遣を兼ねて植村相談役、村山参与が能登半島へ災害ボランティアに入りました。

6日夜9時に奈良を出発、7日朝4時半に穴水駅に到着し仮眠。7日は雨天でVC(ボランティアセンター)は活動中止のため、輪島市経由で土砂災害のひどかった珠洲市大谷地区を目指しました。輪島市では倒壊した7階建てのビルの解体が始まっておりコンボが作業中。地震で隆起した海岸沿いを北東に進むと、店や家屋が土砂に埋もれ、道路は片側交互通行や土砂崩れ、えぐられて狭い道、土留めの黒いフレコン袋の横の道などがいたるところで見られた。ところどころで、防波堤の外に臨時の道路が作られ、かつて海面下だった海岸を走る(不思議な感覚)。しばらく行ってこれも海面下の舗装されていない道路に侵入したが、車はあえなくスタック。四駆に乗っていると安易に判断した結果招いたスタックでした。近くの工事現場の作業員のご厚意でコンボにてけん引して頂き脱出。安易に判断しないで、安全第一を心がければ防げた事態と猛省しています。



海岸線から向かう事を諦めて、再び輪島市から能越道を経由して宿泊場所である珠洲市蛸島町の仮設住宅内の集会所へ。この仮設住宅内の集会所で宿泊できたのは仮設住宅にお住いの石川県支部防災士会会員のご尽力でした。近くの保育所におられた方の話では、ここの仮設住宅は浸水被害がなかったけど、自宅は周りが池のようになってしまったとのこと。



8日、集会所は午前中使用予定があり8時までに退出する必要があるとのこと。朝、ゴミ出しの70代の女性に挨拶すると「まあ！奈良から、ありがとうございます」、「2年で仮説を出ないといけなく。家は全壊だが、納屋を改造して夫婦で住むつもり」と明るく話をされていたことが印象的でした。

8日のVCはボラバス2台60名、団体25名の計85名。私たちは、他の団体の方を含めて8名で珠洲市上戸地区の床上浸水被害の店舗兼住宅の布団や家具を正院町にある被害者の倉庫に移動する活動と、浸水被害で使えなくなった不要家具を蛸島災害ゴミ仮置場へ軽トラで運搬する作業を開始。作業は、まず泥をかきだして動線確保から始まり、運搬作業チームと住宅敷地内の駐車場に溜まった土砂を土嚢袋に入れる作業に別れて活動。



このお宅に住んでおられた被災者の方は、「地震で家がほぼ全壊」「なんとか使える家財道具を知り合いのツテを頼ってここに運んだのです」「その家が床上浸水で、ご覧のとおり・・・」と話されていました。気丈に話されたはいましたが、その心中は察するに余ります。心が折れないことを祈りながら帰路につきました。

## ■令和6年能登半島地震第9次災害ボランティア（10月14日～17日）

令和6年10月14日（月祝）から17日（木）まで、石川県珠洲市災害ボランティアセンターを拠点に活動を行いました。今回奈良県防災士会は八木沢1名での参加であり、他の団体とコラボしての支援活動でした。

（活動日とコラボした団体）

- 10月14日（月祝）チームふくいとのコラボ計10名
- 10月15日（火）北陸電力の2名とのコラボ計3名
- 10月16日（水）ボラキャン3名・北陸電力2名とのコラボ計6名
- 10月17日（木）ユネスコ5名とのコラボ計6名

（現地の状況）

地震被害の公費解体が進み、ボランティアセンターを週末のみに縮小しようとした矢先に広域水害発生。川の近くのお宅は浸水被害、山の麓のお宅は土砂被害となっていた。地震被害に水害・土砂被害が加わる多重被害となっており、住民さんの疲労の色も濃くなってきています。

（支援内容）

震災被害を受けたお宅の家財の運び出し。また土砂被害を受けたお宅へは泥だしが主な作業でした。



（4日間の活動を通して）

珠洲市ボランティアセンター（以降VC）には、平日にも関わらず100名を超えるボランティアが来ていました。石川県のボランティアバス2台、福井県から「チームふくい」のバスが毎日運行。ボラキャンも毎日数名が参加。土砂被害を受けたお宅では床板はがしが終わっていないお宅も多く、レスキューアシストや他の技術系ボランティアが先に床板をはがし、その後に一般ボランティアが泥だしする工程となっていました。その泥だしをまだ20代の若者がどろどろになりながらも、積極的に行っている姿を見て頼もしく感じました。16日夜の宿泊を、石川県防災士会のご厚意で「蛸島町第1団地」（仮設住宅）集会場をお借りできました。前の週に植村相談役と村山さんが宿泊された所と同じ場所になります。住民座談会の内容が壁に掲示しており、仮設住宅に住まわれている方々の苦悩が書き記されてありました。

今回の活動は、毎日VCを立ち上げてくれた珠洲市社協職員の方々、コラボさせて頂いた各団体の方々、毎日お弁当を販売してくれたすずキッチンの方々、宿泊手配頂いた石川県防災士会、ボランティアを優先的に宿泊させて頂いた和倉温泉「大観荘」の方々、後方支援をしてくれた奈良県防災士会の仲間があつて無事に活動ができました。この場をお借りし深く感謝いたします。〈報告：八木沢 防災士〉



## ■ 珠洲市ボランティアセンターおよび珠洲市内（第 10 次）

令和 6 年 11 月 1 日(金)21:00 過ぎ、台風 21 号から発達した低気圧によって天候が雨となった中、奈良県防災士会能登半島被災地支援活動第 10 次として、北村、湯浅、金城の防災士 3 名が奈良を出発しました。11/2(土)の未明に石川県頃珠洲市の「道の駅すずなり」へ到着。夜が明けてから、同日生駒市内の自主防災会として現地に着いた八幡領、吉川防災士を含む 3 名、10/31(木)よりボラキャン珠洲にて活動中の奈良市の矢作防災士とも合流。合計 7 名でのチームとして活動を開始しました。珠洲市のボランティアセンター（以降 VC）ではこの日雨天による活動の中止を前日から発表していました。ひとまず全員で VC の事務所へご挨拶をし、翌日は朝から活動しますと伝えました。ボランティア活動が 1 日出来なくなったため、この日は一日市内を巡り道の駅や飲食店などでお金を使う支援として活動しました。祿剛崎（ろっこうさき）の灯台や見附島など観光名所へも足を運び、生憎の天候ではありましたがメンバー一同珠洲の文化や観光を味わいました。



翌日、11/3(日)は早朝より好天となり、分散して泊まったメンバー 7 名は再び VC へ集結しました。ボランティア登録、オリエンテーションの後にマッチングとなり奈良県防災士会 7 名はボーイスカウト石川県連盟 8 名の方と合計 15 名で、宝立町の民家の 2 階建て倉庫と納屋の片づけの作業へと向かいました。豪雨災害の後の活動でしたが、現場は地震災害の被災家屋でした。

地震と水害の両方の被害によるボランティア依頼の案件が VC には多く寄せられているとのこと。依頼者のお宅は米作りやお茶の生産者さんで、土地と建物を別の方に譲るということで使わなくなった苗床が多く出てきました。

その他にも多くの物がありましたが、依頼者さんご夫婦と次の持ち主となる方も立ち合いに來られ、要るものと要らないもの、作業の要望などを確認していただきながら混成チームとなって、それらのほとんどを運び出し集積場へ運ぶことができました。作業が終わって広くなった 2 階建ての倉庫の中もきれいに清掃し、納屋の方も崩れた壁材や一部の道具類を残して片付けることができました。VC へ戻り、作業の継続が必要な事を報告して VC を出て第 10 次の奈良県防災士会被災地支援活動を終了としました。〈報告：北村防災士〉



## ■ 第 11 次 能登半島地震災害ボランティア活動

第 11 次の支援活動は前回 10 次活動同様に天候不順により 2 日間日程計画のところ、2 日目の日曜日 1 日だけの活動となった。1 日目の土曜日は珠洲市ボランティアセンター（以降 VC）休止が直前に判明し、金曜日夜の出発から土曜日朝の出発に変更したが、連絡が滞ることなくトラブルなく出発した。初日は、予定していた珠洲市内の谷野旅館に 6 名で宿泊。活動当時は珠洲市災害 VC に、珠洲ボランティアキャンプ（珠洲キャン）で活動を継続していた 2 名が合流し 8 名で依頼を受ける。依頼内容は 2 件。4 名 2 班に分かれ、いずれも家屋または倉庫内の片付け、運搬作業であった。

一つは宅内の片付け作業をまず行い、奥の納屋から輪島の漆器といった貴重品の取り出し作業を行う。



納屋2階へつなぐ階段までは、たどり着けるまで散乱した物などの障害があり、2階への開閉扉も地震によるゆがみや2階部分の壁などが扉の開閉を阻み困難を極めたが、何とか2階へ踏み入れることができた。納屋2階へ行けるようになった段階で依頼者の喜びを肌で感じました。その後、必要な貴重品の運び出しを行ったが、もし、余震などが発生した場合は閉じ込められる心配もあった。もう一方の活動はいきなり軽トラのタイヤがパンクというアクシデントがあった。すぐに車両の交換を行い、依頼された電化製品等の運び出しに着手する。午後から分かれていた班が合流するも物量半端なく依頼を受ける段階で継続案件であったようであるが、今回も継続案件となった。帰路は、これまで同様日曜日の夕方に現地出発。奈良には深夜帰着となった。

<報告：八幡領防災士>



## ■秋田、山形記録的大雨被災地支援金会計報告

- 収入  
 会員、県民の皆様からの寄付・カンパ 53,000円 ご協力に感謝いたします。
- 支出  
 秋田、山形、新潟各支部に活動支援金 300,000円

能登半島支援については継続中です。ご協力をよろしくお願いいたします。

## 今後の活動予定

### ■奈良県防災士研修会・懇親会

日 時：2025年2月24日(月・振替休日) 14時30分～16時30分  
 場 所：王寺町地域交流センター リーベルホール  
 講 師：NPO法人石川県防災士会 副理事長 大月真由美さん  
 テーマ：「能登半島、地震！そして豪雨！～能登の現状と私たちの支援活動～」  
 詳しくは会員様宛に郵送でご案内します。

### ■奈良県防災士会 総会・研修会・懇親会

- 2025年5月25日(日)  
 詳細は4月下旬頃、会員様宛に発送する予定です。

## ■奈良県防災士会 頒布品のご紹介

- 研修会、および総会で販売します。会場へお越しの際にお買い求めください。
- 郵送・通販形式での販売、および取り置きは行っておりませんのでご注意ください。

### ★防災士ビブス(新発売！)

メッシュ素材の**防災士ビブス**が頒布品に登場。  
防災ベストと同じく左胸に「NPO 法人 奈良県防災士会」の名称を入れました。夏場の訓練などに最適です。

- 頒布価格 2,500 円 (税込)
- カラー 緑 (1色)
- サイズ XL、XXL (2サイズ)
- XL(縦横 60cm)、XXL(縦横 65cm)
- 仕様 前面 2カ所ポケット付き



▼ファスナー&生地ポケットビブス 大人一般(XL)サイズ  
※マジックテープ留め部分ポケット口幅最大まで延長

### ★防災士ベスト

左胸に「NPO 法人 奈良県防災士会」の名称を入れた、  
防災士ベストです。

- 頒布価格 2,500 円 (税込)
- カラー 緑 (1色)

サイズ	F(L)	XL	XXL
着丈	69	72	75
身幅	56	59	62

(単位: cm)



着用例: サイズF(L) (身長 160cm)

### ★防災士キャップ

フロントに防サイくんをデザインし、サイドに「奈良県防災士会」の名称を入れた奈良県防災士会オリジナルキャップです。優れたドライ機能とUVカットが嬉しいポリエステル100%メッシュ素材。

- 頒布価格 1,500 円 (税込)
- カラー 緑 (奈良県防災士会のベストと同色)
- サイズ フリー (サイズ調整可能)



## 事務局からのお知らせ

奈良県防災士会のウェブサイトをご存知ですか？イベントのお知らせや、活動報告は、

**「奈良県防災士会」**で検索！



奈良県防災士会の**Facebook**を公開し、さまざまな情報をアップしています。「いいね！」をよろしくお願いします。

「Facebook 奈良県防災士会」で検索

奈良県防災士会のウェブサイトでは、会員のスキルアップのため、県内で開催される防災訓練の情報をスケジュール欄に掲載しています。併せてお手伝いの募集も行っています。予約制となりますので、見学を希望される方は、事前に事務局までメールで申込をお願いします。

- 発行日 2025年1月1日
- 発行者 特定非営利活動法人奈良県防災士会 理事長 末田政一  
〒632-0221 奈良市都祁白石町1192-190
- 編集 特定非営利活動法人奈良県防災士会 広報部会

- E-mail mail@bousainara.com
- FAX 050-3488-8178
- ウェブサイト <http://bousainara.com>
- Facebook <https://www.facebook.com/bousainara>